宗教新聞

発行所 宗教新聞社
東京都新宿区新宿5-13-2
〒160-0022
電話 03-3353-2940(代)
FAX 03-5363-5182
郵便振替口座 00130-9-22704
URL http://www.religion-news.net
©宗教新聞社 2023

購読料（税込）
1部 500円
半年 3,000円（〒共）
年間 6,000円（〒共）

〈社是〉
一、精神革命の旗手
一、宗教連合の具現
一、地上天国の建設

宗教サミット36周年「世界平和祈りの集い」

平和への道、未来へ向けて

比叡山延暦寺

宗教、宗派を超えて国内外の諸宗教の代表が集まり、平和を祈り合う「世界平和祈りの集い」が8月4日、滋賀県大津市の比叡山延暦寺で行われた。「集い」は1986年にローマ教皇ヨハネ・パウロ2世の提唱でイタリアに諸宗教の指導者が集まった「平和祈願の日」を受け、87年に当地で開催された「比叡山宗教サミット」の精神を引き継ぐため天台宗国際平和宗教協力協会が毎年開催し、今年で36回目。ロシアによるウクライナ侵攻の終わりが見えない中、仏教や神道、キリスト教、イスラム教など内外の諸宗教代表ら約500人が集い、「平和の鐘」の音が響く中、黙祷をささげて紛争や異常気象などの解決を祈った。

「平和の祈り」をささげる諸宗教の代表ら＝8月4日、大津市の比叡山

「平和の式典」は炎暑を避けるため延暦寺会館で開かれた。阿部昌宏天台宗宗務総長は会式の辞で、「アジア、アフリカをはじめ世界で戦争が広がっている。戦争は最大の環境破壊であり、武力ではなく対話と相互理解での紛争解決を強く求めたい。新型コロナウイルスのパンデミックでは貧困や格差などの現代世界の課題を再確認させられた。このような時こそ、宗教者は人類の英知による解決を目指し、共に祈り、世界平和を希求し続けなければならない。宗教者は弱者の側に立ち続けることを誓った36年前のサミットを思い起こし、よりよく生きられる時代を共同してつくりたい」と述べた。

次いで、諸宗教の代表者が登壇し、それぞれの様式で祈りをささげ、各団体の宗教間対話と平和への取り組みについて発言した。登壇したのは、教派神道連合会理事長の宍野史生神道扶桑教管長、全日本仏教会副会長の五條良知金峯山修験本宗管長、日本キリスト教連合会委員長の土屋潔日本アッセンブリーズオブゴッド教団理事長、神社本庁の田中恒清総長、新日本宗教団体連合会常務理事の宮本惠司妙智會教団法嗣、日本ムスリム協会の佐藤裕一副会長。

続いて海外メッセージの披露があり、世界仏教徒連盟のパロップ・タイアリー会長とローマ教皇庁諸宗教対話省（DID）長官のミゲル・アンヘル・アユソ・ギグソット枢機卿からの平和のメッセージが、それぞれ代読された。

次に、ユニセフ支援金寄託式があり、本集いの記念品相当額の40万円が、公益財団法人日本ユニセフ協会の早水研専務理事に手渡された。

「平和の祈り」は例年通り平和の祈り記念碑前広場で行われ、最初に比叡山メッセージの朗読が、若い宗教者を代表して新日本宗教団体連合会の宮本泰克氏と教派神道連合会の北川真喜子氏により行われた。

次いで「平和の祈り・黙祷」が、田中神社本庁総長、出口大本教主、五條管長、土屋理事長、新日本宗教団体連合会常務理事の力久道臣善隣教教主、遠藤利夫日本ムスリム協会会長、戸松義晴世界宗教者平和会議（WCRP）日本委員会理事長、田中安比呂世界連邦日本宗教委員会副議長・加茂別雷神社宮司と主催者代表の大樹孝啓天台座主が登壇して行われ、平和の鐘が打ち鳴らされた。

挨拶する大樹孝啓天台座主

最後に、大樹孝啓天台座主が主催者代表挨拶で「共に集い共に祈ることの大切さを再確認し、世界の恒久平和実現のため宗教者は平和への取り組みにさらなる努力を重ね、その使命を全うすることを心から誓う」と語り、延暦寺の水尾寂芳執行が閉式の辞を述べ終了した。「集い」の様子は動画投稿サイト「ユーチューブ」でも配信された。

（2面に関連記事）

灯

「わたしたちの主イエス・キリストの力に満ちた来臨を知らせるのに、わたしたちは巧みな作り話を用いたわけではありません。わたしたちは、キリストの威光を目撃したのです。荘厳な栄光の中から、『これはわたしの愛する子。わたしの心に適う者』というような声があって、主イエスは父である神から誉れと栄光をお受けになりました。わたしたちは、聖なる山にイエスといたとき、天から響いてきたこの声を聞いたのです。こうして、わたしたちには、預言の言葉はいっそう確かなものとなっています。夜が明け、明けの明星があなたがたの心の中に昇るときまで、暗い所に輝くともし火として、どうかこの預言の言葉に留意していてください。」（ペトロの手紙二 1：16―19）

使徒ペトロは、イエスと共にいながらも、その方がいかなるお方かを知らなかった。その方の威光を見せられていたのだが。イエスの死と復活の後、聖霊によって新しい生命を与えられて初めて、その方こそ神のひとり子であると悟った。その後は生命をかけ宣べ伝えるようになった。（I）

天地

うどん県に暮らす天地子に、秋田県の稲庭うどんがお中元で送られてきた。乾麺をゆでて食べると、コシもほどほどありのど越しがいい。8月3日は恒例の聖徳太子富士登山。高齢になっても登れるように、日ごろから農作業で鍛えている▼富士吉田市に来て必ず食べるのが吉田うどん。同市はかつて富士山の湧水を使って染めた縦糸を使う織物が盛んで、機織りで忙しい女性に代わって男性が食事を用意することから、力を込めて打つうどんが広まったという。コシのある太めの面は噛み応えがある。織物はすたれたが、うどんは健在だ▼うどんの始まりは五島列島という本を読んで、数年前、上五島に行った。椿油をコーティングしながら伸ばすうどんは、感じとしては太めの冷や麦。トビウオを使ったあごだしがいい味だった。ちなみに、さぬきではうどんは唐から帰った空海が始めたというのが定説で、善通寺ではうどん供養が行われている▼天地子はうどん用の小麦さぬきの夢2009を栽培している。県内でも90％以上を占めているオーストラリア産小麦に対抗し、昔ながらの風味があり、コシの出る小麦として県農事試験場と香川大学が共同開発した新品種の二代目だが、うどん職人の評価はもう一つで、打ちにくいという。県では三代目を3年後から投入予定▼舌の肥えた県民に鍛えられ、うどんも日々進化している。コシはあってもやわらかいさぬきうどんもあり、コシまでやわらかいのが伊勢うどん。いろいろあって、どれもおいしい。

社説

山が育んだ日本人の信仰

今年は富士山が世界文化遺産に登録されてから10年の記念の年で、コロナ禍がほぼ収まったことから、内外の多くの人たちが登山を楽しんでいる。ユネスコ世界遺産委員会が「富士山―信仰の対象と芸術の源泉」として認めたように、山容の秀麗さから日本の美を代表する富士山は、日本人の自然観や日本文化に大きな影響を与えてきた。

国土の7割が山の日本では、どこに暮らしても大抵は山が見える。農村では山を見ながら農作業にいそしむ人たちが、農閑期には命の水の源流である山に登りたい、霊気に包まれたいと思うことだろう。集落で霊感の優れた人は、冬の山で修行して霊力を蓄え、春には麓に下りて、人々の現世利益的な願いに応えてきた。漁師は山を目印に漁場を覚え、山は海の恋人と、海に注ぐ川の源流の山に植林する人たちもいる。

山岳信仰と神仏習合

山岳信仰は世界各地にあるが、遠くから眺めるだけでなく、そこに入っていくのが日本の特徴とされる。信仰の始まりは、富士山や阿蘇山、鳥海山など、火山への畏れや地熱の恵みから火山に神がいるとするもの、白山など水源の山への信仰、恐山や月山、立山、熊野三山など、死者の霊が死後に行くところとしたもの、大神神社の御神体である三輪山や役小角が開いた大峰山など神霊がいるとされるものなどが多い。

火山の場合、麓には温泉が湧いて湯治場があり、人々を憩わせている。農村では、田植えの時期になると山の神を家に迎える風習がある。人々は様々な行事やしきたりを通して、自然と一つになる時間を楽しんできたのであろう。それは、仏教以前のウパニシャッド哲学が梵我一如（自然と私が一体化）の境地を目指したのと同じで、それゆえ日本には仏教がインド以上になじんだ。縄文時代の昔から自然と共に生きてきた日本人には、梵我一如は日常の生活実感であり、特別な宗教的修行を要するものではなかった。それは今も変わらない。

普遍宗教である仏教が日本に土着するのに決定的な役割を果たした最澄と空海が、いずれも若い時代、山での修行を求めたことはよく知られる。その過程で古来からの神々との融合、そして神仏習合は自然になされ、それが日本人の信仰の骨格になった。全ての存在に仏性を認め、その教えを中心に仏教を受容、発展させたのも自然の成り行きと言えよう。

山岳信仰の山は高くなくてもよく、京都府笠置町にある笠置山は標高わずか288メートル。東大寺や興福寺での学びに飽き足らなくなった徳一は笠置山に籠って修行し、その後、東北での布教に大きな足跡を残した。京都市街からすぐに行ける東山のふもとにも、修験道の場がいくつもある。

建築家で都市環境空間デザイナーの上田篤は、健全な都市には聖なる存在が見えることが重要だと述べたが、日本ではそれは山に当たる。山頂に雪を頂く山が見える地方では、残雪の形を目安に農作業をしてきた。各地にある駒ケ岳は、残雪に馬の姿を見たからという。祈祷寺の多くは山の中にあり、森と岩の醸し出す雰囲気が呪力を強めている。岩手山を眺めて育った石川啄木は、「ふるさとの山に向ひて言ふことなしふるさとの山はありがたきかな」と詠った。同じように、ふるさとの山を原風景のように心に留める日本人は多く、それが私たちの倫理を支える心性の一つになっている。

日本の山が荒れてきたのは、農業で化学肥料が主流になり、まきの代わりにプロパンガスが使われ、安い外国産の材木が輸入され林業が衰退したからで、人々は山に入らなくなった。一方、レジャーやスポーツ、楽しみとしての登山は盛んで、現代人の暮らしに合わせた山との付き合い方を再考すべきであろう。例えば、観光と信仰を両立したような登山道の整備などである。山道が開かれれば、人々は山に入りやすくなる。

山に親しみ感謝を

香川県綾川町にある滝宮天満宮には菅原道真に由来する念仏踊りが伝わっている。平安時代、国司として讃岐に赴任した道真は、干ばつに苦しむ民のために城山（きやま）の山頂で雨乞いの祈りをささげ、奇跡的に雨が降ったことから、喜んだ民が道真の館に押し掛け、感謝の気持ちを込めて踊ったのが始まり。それを、鎌倉時代に後鳥羽上皇の怒りを買って当地に流された法然が、念仏踊りに仕立てたという。地域の民にとって城山は水分（みくまり）の山であり、命の源であった。

8月11日は山の日で、「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する」のが趣旨。山の霊気に包まれると、学ぶことも多い。便利さや効率、経済性優先の生き方を見直し、山をはじめ地域の自然環境を守るためにできることを考える一日としたい。

暁の祭典・浜降祭 4年ぶり盛大に祝う

茅ヶ崎海岸

玉串を奉って拝礼する利根康教・寒川神社宮司＝7月17日、茅ケ崎市の西浜海岸

暁の祭典・浜降祭（主催、茅ヶ崎海岸浜降祭実行委員会）が海の日の7月17日、4年ぶりに盛大に斎行された。神奈川・茅ヶ崎の南湖の浜（西浜海岸）で利根康教・寒川神社宮司を斎主に寒川町、茅ヶ崎市に鎮座する34社から子供神輿を含む39基の神輿が出御、氏子崇敬者、見物客が集まった海辺の祭場は熱気に包まれた。浜降は海辺での禊を意味し、海水の霊力で心身を清め、新たな御神威を授かる。

男衆に担がれた神輿は「どっこい、どっこい」と勇ましい掛け声と共に竹の鳥居をくぐり抜け南湖の浜、祭場に幟と共に着御し、6時30分に39基が揃い踏み。一列に整列した。

7時、斎主・祭員が入場し、修祓、祓い詞奏上ののち祭員が神輿、氏子を大麻で祓い清める。献饌に移り、全ての神輿に御神酒、海・山の幸が供えられ、斎主が祝詞を奏上。玉串奉奠では、斎主に続いて寒川神社第10代御旅所神主・鈴木孫七氏、同社責任役員、茅ヶ崎海岸浜降祭実行委員会役員、各神社代表、佐藤光茅ヶ崎市長、木村俊雄寒川町長、河野太郎デジタル大臣、星野剛士、阿部知子衆議院議員らが拝礼した。

祭典ののち利根宮司は「待ちに待った浜降祭を晴天の中執り行うことができた。多くの方々にお集まりいただき有難く、喜ばしい。皆様が家内安全、健康にすごされますよう心より祈る」と感謝の気持ちを述べ、亀井信幸・実行委員長は「浜降祭を無事に迎えられたのも、各神社の篤い信仰心、祭りへの深い郷土愛、そして情熱のたまものである。祭典が未来永劫、湘南の信仰遺産として、私たちの心の拠り所として受け継がれていくことを祈念する」と話した。

祭典が終わると39基の神輿は再び激しく練り歩き、波が穏やかな海に神輿が入る「みそぎ」を行った。見物客が見守る中、「どっこい、どっこい」と波しぶきを浴びながら神輿は海の中へ進み、浜に上がると、各神社へ還幸した。

初めて参加し神輿を担いだフランス人の男性は「一つになる雰囲気がとても楽しい。道にごみ一つ落ちていないのが日本の素晴らしさだと思う」と話し、ノルウェーから来た女性は「格好いいし、神輿を担ぐ人たちのパワーを感じる。次は夜中に神輿が来るところを見たい」と楽しそうに語った。

浜降祭の起源は天保9年（1838）。國府祭に出た寒川神社の神輿が帰路、馬入の渡し場（現平塚市）で地元氏子との争いに巻き込まれ、大雨で増水した相模川に転落、相模湾に流された。数日後、南湖の浜で海に沈んだ神輿が発見され、3日後、同社に戻された。この功により同社の禊場が南湖の浜に移され、同地に同社の神輿が渡御するようになった。神輿を発見した網元の鈴木孫七の家は代々御旅所神主を務め、現在は10代目になる。

海中に入り「みそぎ」を行う神輿

本紙定期購読のお申し込みは
■ご希望購読期間 ■氏名 ■郵便番号 ■住所
■連絡先電話番号 ■メールアドレス（お持ちの場合）を明記の上、宗教新聞社宛、はがき、FAXまたはEメールで左記へお申し込みください。
宗教新聞社
〒一六〇―〇〇二二
東京都新宿区新宿5―13―2―4F
電話 03（3353）2940
FAX 03（5363）5182
e-mail:religion@sage.ocn.ne.jp
http://www.religion-news.net
※購読料 年間6000円（税、郵送料を含む）

縄文のパワーフィールドへ
神道よ！今こそ《古来の本物の道》に戻るのだ！
奈良泰秀 エハン・デラヴィ 著
本物のシャーマニズムを日本人が忘れている。神道の潜在力を思い出し、世界に伝えていこう。ケルト民族末裔の意識研究家が、神道のエッセンスを聞き出す。チャネラー、ヒーラー、コンタクティを超える、宇宙と直接つながる知恵は、ここ日本の神道にあり！
四六上製1785円(税込)
株式会社ヒカルランド
〒162-0821 東京都新宿区津久戸町3-11
電話:03-6265-0852 FAX:03-6265-0853
http://www.hikaruland.co.jp

日本宗教の闇
室生 忠著 四六判・520頁 定価：本体2,000円＋税
拉致監禁による強制棄教との戦い
信教の自由が保障された今の日本で、強制棄教を目的に拉致監禁が行われている。職業的強制改宗屋が家族を巻き込み、信者を拉致し、部屋に監禁して、脅迫的説得により棄教を迫る。特に世界平和統一家庭連合（統一教会）やエホバの証人の信者に被害者が多く、中には12年以上の監禁された人もいる。驚くべき宗教迫害のリポート。
アートヴィレッジ
受注センター
〒657-0846 神戸市灘区岩屋北町3-3-18・4F
TEL078(882)9305 FAX078(801)0006

日本よ、蘇れ 日本神話の知恵
ゆがんだ歴史観、家庭の崩壊、教育の危機…。いま日本は大きな危機に瀕しています。この現状を打破するカギは、実は「日本神話＝古事記・神代」にあるのです。日本神話に満ちあふれる、愛と生命と知恵に立ち返ってこそ、日本の未来は拓けます。あなたも著者といっしょに、「神話の教え」をひもといてみませんか？
出雲井晶 著
●定価1000円（税込み）
●四六並製 232ページ
●発行・産経新聞社／発売・扶桑社
お問合せ先／扶桑社 販売企画部
〒105-8070 東京都港区海岸1-15-1
TEL03-5403-8859
購入申込み FAX:03-3578-3075

『先代旧事本紀』の神髄を極めた著者が語る。足で調べた大和建国の謎。
（定価：本体2000円＋税）
日本国始め 饒速日大神の東遷
須佐之男尊の出雲国創建後、饒速日尊が32従者と25軍団を従え、九州から大和に東遷して纏向の地に大和国を建国、その時、饒速日尊が配下を募り配置した今も残るその出自と足跡を立証する。
大野七三 著
批評社
〒113-0033 東京都文京区本郷1-28-36
鳳明ビル102A
TEL03-3813-6344 Fax03-3813-8990

自由社ブックレット2
理想の政教分離規定と憲法改正
四六判87頁／本体価格500円
杉原 誠四郎 著
憲法改正を見据えたとき、宗教に関する条項、規定は、真剣に考えねばならない問題である。
自由社
〒112-0005 東京都文京区水道2-6-3
Tel03-5981-9170 Fax03-5981-9171
http://www.jiyuusha.jp/

新刊！
人生の苦しみに積極的な意味はあるのか？
『21世紀に生きる日本人のための浄土恵想』の出版を記念して、平成26年3月から28年11月までの5回にわたる講演をまとめた著者渾身の生命の書。
私の生命（いのち）の復活
上橋 泉 著
日本人の宗教性（霊性）は回復するか？
四六判296頁（本体1500円＋税）
株式会社 如月出版 販売部
〒152-0023 東京都目黒区八雲2-24-15
ラ リュミエール1F
TEL03-6657-9000 Fax03-6657-8999
http://www.kisaragibook.com

第七刷り出版記念発売
植物霊物語
なぜ柳の木の下に幽霊がでるのか
樫の木を植えると金は残らない
財産を増やすにはカリンを植えろ
勝負に勝つには…勝栗のいわれ
クルミを手の中で握る理由は
酔ってクダまくコショウの木の霊
ガンの原因は植物霊の動き ――その他
近代文芸社刊
定価 1,000円 税込 送料無料
お問い合わせは下記へ
アシレス出版部
〒252-0202
相模原市中央区淵野辺本町2-17-14
TEL042(751)2558 FAX042(754)1818

JR中央線の死を招くホウの木のタタリ
〝これが本当の話しなら植物霊こそ殺人魔だ！〟
小冊子 A5判 10頁
三冊 1000円 税込 送料無料
アシレス出版部
〒252-0202
相模原市中央区淵野辺本町2-17-14
TEL 042(751)2558
FAX 042(754)1818